

授業導入部におけるリスニング指導

Warm-up activities to develop university students' listening skills

小屋 多恵子
法政大学

Abstract

This report aims to introduce some warm-up activities to develop university students' listening skills. Warm-up activities are very important to help students start thinking and focusing on the English class in a limited time and lead them to the main activities. In Comprehensive English Class for the first-year students, they are instructed to infer the gist of a paragraph from the title and the previous or following paragraph, listen to the English passage, dictate it and grasp the main story from the words they wrote down. These activities will facilitate the students to gain their background knowledge for the topics of the textbook they are using and learn the top-down and bottom-up processing in their listening comprehension.

キーワード: warm-up activities, listening comprehension, dictation, top-down and bottom-up processing, background knowledge

科目名	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ (必修科目)
対象者とクラス人数	大学1年生 30名
学習の目標	基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能を総合的に向上させる

1. はじめに

本実践報告では、2012年度に大学1年生を対象にした英語クラス、コンプリヘンシヴ・イングリッシュにおいて、授業導入部に行ったアクティビティを紹介する。この授業では、今日本で起きている身近な話題を海外に紹介する NHK 衛星放送の番組を基にした視聴覚教材用テキストを使って英語のリスニング力を向上させることを主目的とし、身近な日本事情についてじっくり考え、論理的に自分の意見を構築するスキルを学ぶことを副目的とした。この目的のために、ウォームアップでは、その授業で扱うテキストの日本事情に関連した内容の新聞記事をディクテーションすることによって、背景知識を深めると共に英語の音変化に慣れたり聞き取れた音から全体の意味を推測したりといったリスニング力の向上に結び付けようと試みた。実施教室はコンピュータ教室であり、各自コンピュータを使って活動ができる。具体的な授業内容は以下の通りである。

授業内容

- (1) ウォームアップアクティビティ
- (2) 語彙・文法のチェック
- (3) 視聴覚教材を利用したリスニングアクティビティ
- (4) ディスカッションによる意見の構築と発表

(1)では、オリジナルなプリント教材を使用し、(2)(3)(4)では、金星堂の *What's on Japan 6* を使用した。今回は、(1) ウォームアップアクティビティを報告する。

2. ウォームアップアクティビティ

2.1. テキストに関連した題材探しとアクティビティの手順

使用したテキストの *What's on Japan* シリーズは、NHK 海外向け放送の NEWSLINE から日本で社会的話題性の高いニュースを取り上げ、15 のユニットにまとめている。日本人が英語を使用する際に多く語らなくてはならないことの1つが自国の伝統、文化、社会、科学などであるため、海外向けのニュース報道は、日本のニュースの要点を短時間にストレートに視聴者に伝えるために簡潔にまとめられた恰好の教材である。以下は、*What's on Japan 6* で取り上げられたトピックであり、当時の情勢を反映した震災やオリンピック関連記事、日本の地方再生や伝統産業、最新科学の社会への応用記事などが目立つ。

授業導入部におけるリスニング指導

表 1 *What's on Japan6* の各ユニット

Unit	内容
Unit 1	Messenger of Hope (震災からの復興を目指して [3分 56秒])
Unit 2	Swim-assist Suits (楽に泳げる水着 [3分 36秒])
Unit 3	Left-hand Serenade (左手の曲に秘められた思い [3分 57秒])
Unit 4	Picture Card Comeback (紙芝居ふたたび [4分 08秒])
Unit 5	Support Across the Pacific (「がんばれ日本！」米国からのエール [3分 57秒])
Unit 6	Switching Over (ご当地電気自動車 [3分 35秒])
Unit 7	Micro Miracle Workers (納豆菌で水質浄化 [3分 40秒])
Unit 8	Light Savers (節電の切り札、LED レンタル [2分 12秒])
Unit 9	Sushi Chefs Cast Abroad (すし職人、海外へ [3分 40秒])
Unit 10	Drawing in Sales (広告マンガ人気 [3分 35秒])
Unit 11	Thinking Outside the Box (アイディア枡で乗り切る [3分 58秒])
Unit 12	Value Added Goods Plus Service (頼れる電気店ー地域密着型サービス [3分 55秒])
Unit 13	“Downshifting” on the Rise (「スローライフ」の魅力 [3分 57秒])
Unit 14	Lipsmacking Innovation (カップに付かない口紅 [3分 45秒])
Unit 15	Unearthing Unusual Ingredients (希少食材を求めて [3分 36秒])

授業で取り上げるトピックに関連した新聞記事を見つける作業を行うわけであるが、多くは1999年創刊の『2パラグラフで英字新聞を読もう！有料版』(2013年1月31日号で廃刊)を使用した。これは、世界中のホットな話題を扱った新聞記事の最初の2パラグラフ読んでみようというサイトで、2パラグラフを読み上げた2種類の音声 (slow, natural バージョン)、原文の中の難しい単語の意味と解説、日本語訳、内容の解説などを紹介してくれるものである。例えば、*What's on Japan6* の Unit 15 Unearthing Unusual Ingredients を学習する授業のウォームアップには、BBC から “Future foods: What will we be eating in 20 years' time” を選び、私たちの未来の食卓に上がる食べ物を推測してみた。Unit 2 Swim-assist Suits を学習する授業のウォームアップアクティビティは、The Asahi Shimbun から “SWIMMING/ Japan Olympians praise banned suit for training” という記事を取り上げた。これは、Unit 2 の内容に合致するものであり、一度教科書を学習した1週間後の授業の復習としてウォームアップで扱った。また、ウォームアップアクティビティの手順は以下の通りである。

表 2 1 パラグラフディクテーションの場合の手順

手順	内容	授業形態
1	新聞名、タイトル、2パラグラフのうちディクテーション対象とならないパラグラフ、キーとなる単語や難しい単語の説明を記したプリントを配布。	全体学習
2	タイトルやプリントに提示した1パラグラフをみながらディクテーションする1パラグラフの内容を想像してみる。	全体学習
3	大学の授業支援システム上に置いた音声ファイルを聞きながら、各自ディクテーションを行う(7分)。	個別学習
4	ディクテーションをしたものから、そのパラグラフの内容を推測し書く。	個別学習
5	スクリプトを見ながら答え合わせを行う。	個別学習
6	特徴ある音変化(脱落、同化、連結)や英語のリズムなどを学習する。	全体学習
7	6の部分を中心に音声を再度聞いて確認し、音読練習をする。	個別学習

2.2 アクティビティのねらい 1: 背景知識を増やし、トピックの内容により興味を持たせる

背景知識が聴解に与える要因の1つであることは広く知られていることである。背景知識がなくては音が聞き取れても内容を理解することは難しいであろう。ウォームアップアクティビティからテキストを使用したアクティビティへとよりスムーズに移行し、そのメインの活動を通じてより多くのことを吸収するためには、ウォームアップアクティビティの役割が重要になる。そのため、ウォームアップアクティビティでは、その日のテキストのトピックに近いもので、学生が身近に関心を寄せるような新聞記事を選び、ディクテーションを行った。その際に気をつけたことは、なるべくじっくり音声を聞いてディクテーションができる時間を確保することである。ウォームアップアクティビティに使える時間は90分中20分位で、その中でもディクテーションに充てられる時間は7分ほどとした。これは、学生が飽きずに集中して音声を聞くことができる時間と30 words 前後からなる1パラグラフを十分聞いて文字化できる時間であると考えた。トピックに関わる背景知識を持ってからテキストのアクティビティを行うことによって、背景知識を最大限に活用しながらテキストのDVD音声を聞き取れるようにした。

2.3 アクティビティのねらい 2: 英語の音変化に意識をしながら聞く

英語のリスニングが苦手な原因の1つに、音声を捉え、それを英語音の連続によって構成されるテキストとして受け取るテキスト化ができないことがある。大学生には、日本語

と英語の音声面でそれぞれ異なる特徴を持っていることを知識としてある程度入れておき、意識して聞くことによって克服することが有効な手段の1つと考えられる。ウォームアップアクティビティの中で、**bottom-up** 的知識を学習して音読練習することによって、テキストを使用したアクティビティの中のディクテーションに応用させようと考えた。

毎回のウォームアップアクティビティの中で、顕著な音変化を1つだけ取り上げることとした。例えば、“SWIMMING/ Japan Olympians praise banned suit for training”では、intended to の[d][t]の連続による[d]の脱落、first-time swimmers の[t]の連続による first の[t]の脱落を取り上げ、音読練習を行った。“Future foods: What will we be eating in 20 years' time”では、文アクセントを取り上げた。文の中で基本的にアクセントを受けずに発音される機能語とアクセントを受けて発音される内容語を区別して発音することを指摘し、自分の聞き取れた単語を確認した後、音読練習を行った。このように、毎回の授業で提示するスクリプトから音声学的な知識を1つ選び、学生のディクテーション後の答え合わせの時になぜこの単語が聞き取れなかったかの答えになるようになるべくやさしい言葉で説明するようにした。学生がディクテーションをしている間に巡回し、多くの学生が聞き取れない場所を把握した後、用意していた音声学的な説明を時に急遽変えることも必要であった。

2.4 アクティビティのねらい3: 個々の単語から全体の意味を推測する

2.3の英語の **bottom-up** 的知識の構築と共に、**top-down** 的知識の構築もリスニング力を向上させるためには必要であるというのが一般的である。学生がリスニングがわからない一つの現象が、単語はわかるのに文全体の情報が把握できないことであるため、**top-down** プロセスによって、個々の音のテキスト化を全体の意味把握につなげていく作業を行っていくことにも心がけた。そこで、7分間のディクテーションからどのような内容なのか推測して書く時間を設けた。ディクテーションを行うことによって個々の音を文字化して満足してしまわないように、必ず意味がとらえられているか確認するようにした。

2.5 アクティビティのねらい4: 英語の音声に慣れる

テキストの音声は1unitにつき3分半~4分位のものがほとんどであり、授業内で聞く時間をもうけても限界がある。ウォームアップアクティビティで別な音声を聞くことによって、テキストの音声を聞く以外にも音声のインプットをプラスした。また、中間試験と期末試験にウォームアップアクティビティで聞いた音声テストを課すことによって、授業内で聞くことだけにとどまらず、音声をダウンロードしたものを保存して持ち歩き、いつでも聞きたい時に聞くことができるように指導した。

3. おわりに

今回報告したウォームアップアクティビティは、テレビのニュースを取り上げたテキストを効果的に利用するための *facilitator* として『2 パラグラフで英字新聞を読もう！有料版』を基に考えたものである。日本を紹介するニュースとはいえ、学生にとって必ずしもよく知られている内容とは言えないため、少しでも先に関連した情報を獲得しておくことによって、ニュースに関する背景知識を豊かにし、ニュースに取り組みやすくしたいと考えたこと、英語のリスニングが苦手な学生に 30 words ほどの短いパッセージを集中して聞き、聞き取りのコツを少しずつ学習しながら自律学習につなげていきたいと考えたことから考案されたものである。特に、この授業は 1 時限に設定されているため、授業にきちんと来た学生のためになるようなリスニング指導をしたいということも今回のウォームアップアクティビティを考えた 1 つの目的である。1 年を通じて毎日 1 段落のディクテーションをし、自分の聞き取れた箇所と聞き取れなかった箇所を分析し、英語の特徴を踏まえた音読練習をすることが、リスニング力向上につながることを期待している。

『2 パラグラフで英字新聞を読もう！有料版』はすでに廃刊になってしまったが、情報サイトにより日々様々な英語記事を読めるため、関連した記事を探すことは容易である。また、昨今無料の音声読み上げソフトが手に入る。良し悪しは自分で確認する必要があるが、中には英語リスニング学習として使えるソフトもある。それを利用して同じようにウォームアップアクティビティを行うことが可能である。更に音声を通じてニュースを聞き取るアクティビティを改善し、授業で試行していきたい。

参考文献

武井昭江編著 (2002) 『英語リスニング論』 東京：河源社。

富田かおる・小栗裕子・河内千栄子編著 (2011) 『リスニングとスピーキングの理論と実践』
東京：大修館書店。

Appendix: ウォームアップアクティビティ レジューメ例

2012年7月29日(日) "BBC" から

Future foods: What will we be eating in 20 years' time?

Volatile food prices and a growing population mean we have to rethink what we eat, say food futurologists.
So what might we be serving up in 20 years' time?

Dictation!

聞き取った箇所からパラグラフの意味を考えよう！

★ volatile: 不安定な、変動しやすい、移り気な、揮発する、つかの間の

★ rethink: 考え直す、再考する

★ futurologist: 未来学者

★ serve up: (料理を) 食卓に出す、(話を) 蒸し返す ★ immediately: すぐに、早速、直接に

★ obvious: 明らかな、疑う余地のない

★ link: 結びつける、つなぐ、関連づける